

文部科学大臣 殿

〔設置者の名称〕 学校法人佐野学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 佐野 元泰

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	神田外語大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学)・短期大学・高等専門学校・専門学校
大学等の所在地	千葉県美浜区若葉 1-4-1
学長又は校長の氏名	宮内 孝久
設置者の名称	学校法人佐野学園
設置者の主たる事務所の所在地	東京都千代田区内神田 2-13-13
設置者の代表者の氏名	理事長 佐野 元泰
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/

大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)第 7 条第 1 項の確認を申請します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点(☑)を付けて下さい。

- この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実と相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等修学支援法に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第 7 条第 2 項第 3 号及び第 4 号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務部・二瓶清実	043-273-1322	somu@ml.kuis.ac.jp
第2号の1	教務部教務課・村田裕司	043-273-1320	kyomuka@ml.kuis.ac.jp
第2号の2	法人本部総務部・名越裕正	03-3258-5830	h-soumu@kifl.ac.jp
第2号の3	教務部教務課・村田裕司	043-273-1320	kyomuka@ml.kuis.ac.jp
第2号の4	総務部総務課・石山英行	043-273-1322	somu@ml.kuis.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点(☑)を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事(役員)名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	神田外語大学
設置者名	学校法人佐野学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	10,278,102,985 円	8,873,725,608 円	1,404,377,377 円
申請2年度前の決算	10,038,394,555 円	8,728,391,151 円	1,310,003,404 円
申請3年度前の決算	9,724,432,758 円	8,200,313,687 円	1,524,119,071 円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	18,543,966,138 円	5,376,385,733 円	13,167,580,405 円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	3,709 人	4,170 人	112%
前年度	3,629 人	4,064 人	111%
前々年度	3,559 人	3,941 人	110%

(IIの補足資料) 「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○ 「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

○ 「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神田外語大学
設置者名	学校法人佐野学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
外国語学部	英米語学科	夜・通信	0	222	0	222	13	
	アジア言語学科	夜・通信			2	224	13	
	イペロアメリカ言語学科	夜・通信			4	226	13	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信			8	230	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

以下の web サイトにて授業科目の一覧表を公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/kamokutani_2019.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神田外語大学
設置者名	学校法人佐野学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

以下の web サイトにて公表。事業報告書3ページ参照。
https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/kansahoukoku_3001_1.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社役員	2019.4.1. ～ 2023.3.31.	学園統括補佐
非常勤	株式会社顧問	2019.4.1. ～ 2023.3.31.	教育・研究担当
(備考) 学外者理事は、上記2名を含め、計5名が委嘱されている。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神田外語大学
設置者名	学校法人佐野学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 前年度の冬に各教員にシラバス作成を依頼し、学科管理科目等に関しては第三者チェックを経た後に、毎年3月上旬にシラバスを公開している。</p> <p><授業内容> 授業の全体を把握できるよう、授業の概要やねらいを記載する。学生がどのような知識・能力などを修得できるかを記載する。授業の目的について、日本語での入力の場合、英文の抄訳をあわせて入力する。授業における学生の学習到達目標を記載する。</p> <p><授業の計画> 15回必ず記載する。各回の講義内容を具体的に記載し、準備学習や復習の参考になるようにする。「試験」のみの回は設けず、試験内容の解説やまとめなどフィードバックの方法を記載する。予習・復習等の具体的な内容やそれに必要となる時間の目安を入力する。</p> <p><成績評価の方法> 到達目標に対する達成度をどのように測るかを記載する。また、成績の質問に対して明確に回答できるようにする。評価方法や評価基準をできるだけ詳しく記載する。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>以下のwebサイトにて公表。 https://camjweb.kuis.ac.jp/portal/slbskgr.do</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位認定基準は全学科共通で、100点満点の60点以上を合格、59点以下を不合格としている。成績の表記は、A+ (100点~90点)、A (89点~80点)、B (79点~70点)、C (69点~60点)、F (59点以下) である。ただし、このような段階評価に適合しない成績評価については、P (合格) または F (不合格) としている。単位認定基準及び成績評価基準については、学則及び「学生便覧」に明記している。</p> <p>評価は、試験、レポート、プレゼンテーション、授業への参加度合い、出席状況等、多元的な基準を設定している。科目によって授業の形態や目的等が異なることから、いずれの評価方法を採用するかは、各科目の担当教員が適切に判断し、成績を付与している。科目ごとの評価基準はウェブサイト掲載の電子シラバスに明示しており、学生は随時ウェブサイト上で確認することができる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学期毎に、個々の履修登録科目のGP (Grade Point) にその科目の単位数をかけ、その総和を履修登録科目の総単位数で割ってGPAを算出する(小数点第2位を四捨五入)。「F」評価(不合格)の科目もGPA計算時の対象となる。ただし、認定科目(「P」or「F」)は、GPAの算出対象外とする。</p> <p>GPAの算出方法：{(履修登録科目のGP×当該科目の単位数)の総和} ÷ 履修科目の総単位数</p> <p>各学期の入学時から通算したGPAの学年ごとの分布は、令和元年度前期から本学ホームページにて公開を開始する。これによって、各学生は学内における成績の相対的な位置を認識することができ、今後の学修への指針とすることができるようになる。また、成績不振な学生にはポータルサイトであるCampus Webを通じて告知を行うことで、次学期の学修に向けて学生自らが学修の在り方を振り返ることができる仕組みを構築する予定である。</p>	

客観的な指標の算出方法の公表方法	以下の web サイトにて GPA 算出方法を公表。学生便覧 84 ページ（「Ⅷ 試験及び学力評価について」の「3. GPA」）参照。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/2019_handbook.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>高度の外国語運用能力と広い一般知識及び深い専門知識を身につけさせるとともに、我が国の伝統文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成を大学全体の目的とする。同目的を達成するために編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を修得し、かつ研究コースを修了した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。学科によっては、外部検定試験のスコアを用いる等の手法により、「高度な外国語運用能力」を担保している。また、卒業の判定にあたっては、教務委員会及び教授会での検討を経た上で決定されている。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	以下の web サイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/vision/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神田外語大学
設置者名	学校法人佐野学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/about/financial/
収支計算書又は損益計算書	http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/about/financial/
財産目録	http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/about/financial/
事業報告書	http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/about/financial/
監事による監査報告(書)	http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/about/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人佐野学園事業計画 対象年度: 令和元年度)
公表方法: https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/kansahoukoku_3001.pdf
中長期計画(名称: 中期経営計画第5フェーズ 対象年度: 平成31年度~令和3年度)
公表方法: https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/chuukikeieikeikaku5.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 以下のwebサイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 以下のwebサイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 外国語学部
教育研究上の目的（公表方法：以下の web サイトにて公表。学則第 2 条第 3 項。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/2019_code_ug.pdf ）
(概要) ・英米語学科は、多文化共生が求められる社会情勢の中で、高度の英語運用能力を身につけさせるとともに言語としての英語及び英語圏のさまざまな事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し、国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。 ・アジア言語学科は、多文化共生が求められる社会情勢の中で、高度の専攻地域言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語）の運用能力を身につけさせるとともに英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏のさまざまな事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し、国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。 ・イペロアメリカ言語学科は、多文化共生が求められる社会情勢の中で、高度の専攻地域言語（スペイン語、ポルトガル語）の運用能力を身につけさせるとともに英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏のさまざまな事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し、国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。 ・国際コミュニケーション学科は、多文化共生が求められる社会情勢の中で、高度の英語運用能力を身につけさせるとともに IT 関連の運用能力養成にも努め、豊かな教養を有し、真のコミュニケーション能力を身につけた国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：以下の web サイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/vision/ ）
(概要) 高度の外国語運用能力と広い一般知識及び深い専門知識を身につけさせるとともに、わが国の伝統文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成を大学全体の目的とする。同目的を達成するために編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を修得し、かつ研究コースを修了した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：以下の web サイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/vision/ ）
(概要) ・授業科目は、外国語科目、特別演習科目、基礎科目、研究科目、研究演習、卒業論文及び自由選択科目に区分され、これらを適切な年次に配当することによって、「言葉」と「文化」の両面について、バランス良く、また体系的に学習できるカリキュラムを構成する。 ・外国語教育に関しては、各専攻言語に具体的な到達目標を設定し、「話す、聞く、読む、書く」の技能を総合的に駆使することのできる言語運用能力の養成を目指す。これに加え、通訳・翻訳・討論・スピーチやプレゼンテーションの訓練を取り入れる等、高度で実践的な専攻言語の運用能力を養成するための教育課程を編成する。 ・今日の国際社会における使用言語としての英語の役割を重視し、英語以外の言語を専攻する学生に対し、英語科目を必修とし、あわせて具体的な到達目標を設定する。これにより、専攻言語に加え、英語の実践的な運用能力の養成も図る。 ・言語の背景にある歴史・文化・社会・経済等の教育については、研究科目や研究演習の他、体系的かつ学際的に学習できるように、研究コースを設置する。さまざまな知識を系統立って修得させ、より豊かな教養を身につけさせるために、同コースの修了を卒業要件の一つとする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：以下の web サイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/vision/ ）

(概要) 神田外語大学の理念は、『言葉は世界をつなぐ平和の礎』である。このため、本学の教育は、『わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成』することを目的としている。次のような学生を広く求めている。 ・高等学校等において、基本的な知識・技能・コミュニケーション能力を習得している人。 ・外国語と外国の文化に興味を持ち、将来国際社会の一員として活躍する意欲のある人。 ・本大学で実践的な外国語運用能力を習得する強い意志を持っている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ウェブサイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人・3人	—					人
外国語学部	—	42人	31人	37人	0人	0人	110人
附属研究所等	—	10人	3人	107人	0人	0人	120人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		195人					195人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：以下のwebサイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/degree_2019_1.pdf						
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
次に例示するようなプロフェッショナル・ディベロップメントを行っている。 ・プロフェッショナル・ディベロップメント委員会（FD委員会に相当）を設置し、PD(Professional Development)活動を行っている（本学では、FDをPDと称す。）。 ・再任審査対象（テニュアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象に授業参観を実施し、その結果をフィードバックしながら授業改善に役立っている。 ・全科目を対象に学生の授業評価アンケートを実施し、授業改善や工夫の一助としている。 ・Bag Lunch Seminarを開催し、研究成果を共有している。 ・学内外講師によるPD講演会を開催し、授業改善に役立っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語学部	893人	980人	109.7%	3,709人	4,170人	112.4%	96人	50人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	893人	980人	109.7%	3,709人	4,170人	112.4%	96人	50人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語学部	778人 (100%)	7人 (0.9%)	672人 (86.4%)	99人 (12.7%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	778人 (100%)	7人 (0.9%)	672人 (86.4%)	99人 (12.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 日本航空株式会社 (CA)、全日本空輸株式会社 (CA) 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
外国語学部	836人 (100%)	536人 (67.3%)	204人 (24.4%)	69人 (8.3%)	0人 (0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	536人 (67.3%)	204人 (24.4%)	69人 (8.3%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>前年度の冬に各教員にシラバス作成を依頼し、学科管理科目等に関しては第三者チェックを経た後に、毎年3月上旬にシラバスを公開している。</p> <p><授業内容></p> <p>授業の全体を把握できるよう、授業の概要やねらいを記載する。学生がどのような知識・能力などを修得できるかを記載する。授業の目的について、日本語での入力の場合、英文の抄訳をあわせて入力する。授業における学生の学習到達目標を記載する。</p> <p><授業の計画></p> <p>15回必ず記載する。各回の講義内容を具体的に記載し、準備学習や復習の参考になるようにする。「試験」のみの回は設けず、試験内容の解説やまとめなどフィードバックの方法を記載する。予習・復習等の具体的な内容やそれに必要となる時間の目安を入力する。</p> <p><成績評価の方法></p> <p>到達目標に対する達成度をどのように測るかを記載する。また、成績の質問に対し明確に回答できるようにする。評価方法や評価基準をできるだけ詳しく記載する。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
高度の外国語運用能力と広い一般知識及び深い専門知識を身につけさせるとともに、我が国の伝統文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成を大学全体の目的とする。同目的を達成するために編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を修得し、かつ研究コースを修了した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	英米語学科	124 単位	有・無	48 単位
	アジア言語学科	124 単位	有・無	48 単位
	イペロアメリカ言語学科	124 単位	有・無	48 単位
	国際コミュニケーション学科	124 単位	有・無	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：以下の web サイトにて公表。学生便覧 18 ページ (「VI 履修登録単位数の上限」) 参照。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2018/03/2019_handbook.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：本学ウェブサイトにて公開予定。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：以下の web サイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/campuslife/facilities/
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
外国語学部	英米語学科	980,000 円	200,000 円	255,000 円	2018 年度以降の入学者に適用。 「その他」は、施設設備費、学友会費等で、2-4 年次は 335,000 円。
	アジア言語学科	980,000 円	200,000 円	255,000 円	
	イペロアメリカ言語学科	980,000 円	200,000 円	255,000 円	
	国際コミュニケーション学科	980,000 円	200,000 円	255,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教職協働の下、学生が修学上の到達目標を達成できるよう、方針・計画を立て、きめ細かな対応をしている。 学生課では、日本学生支援機構を中心とする奨学金の採用について随時説明会の実施や相談を行うことで経済的支援の窓口となっている。 メディカルセンターでは、臨床心理士が常駐しておりカウンセリングに応じている他、学生の心身の相談に対応できる体制を整えている。 キャリア教育センターでは、低学年から就業意識を高めるためのキャリア関連科目の開講や単位認定を伴う形でのインターンシップの実施等の取組を行っている。また、年間 4,000 件の学生個別面談の実施や年間 250 社を超える学内会社説明会等の進路支援活動を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 次のような取組を行っている。 ・学内での企業による業界セミナー及び会社説明会の実施（2018 年度は年間 280 社超）。 ・学生との個別面談の実施（2018 年度は年間 4,000 件超）。 ・就職セミナー等の実施（2018 年度は年間 130 件超）。 ・キャリア教育関連科目の開講。 ・学生の国内外のインターンシップ参加支援（2018 年度は 200 名以上の学生が単位認定ベースでインターンシップ参加）。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、学生の健康や心理面の悩みに関する相談を担当するメディカルセンターを設置している。メディカルセンターでは、看護師の資格を有する常勤職員 1 人と派遣職員 1 人が健康面の相談や軽い怪我等の応急処置を実施している。また非常勤臨床心理士のカウンセラー 4 人（いずれも女性）が学生の心理面での悩み等に関するカウンセリングを担当している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：以下の web サイトにて公表。 https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/
--